

# 三度目の親和銀行一県経済連の決勝対決は3年前と同スコア

## 第42回長崎県軟式野球選手権大会

会期：平成4年11月13日(金)～15日(日)  
会場：長崎市宮大橋球場、三菱球場

親和銀行(推薦)

大瀬戸クラブ(西彼) 1  
愛野町体協野球部(南高) 4  
御厨クラブ(松浦) 3  
郷ノ浦ヤンキース(壱岐) 1  
美津島マーシャルズ(対馬) 3  
安中クラブ(島原) 1  
大村市役所(大村) 4  
轟クラブ(北高) 2

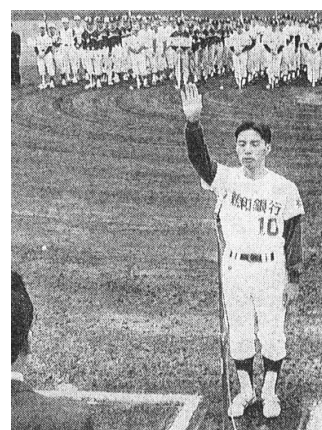
0 奈良尾クラブ(上五島)  
2 生月体協(県北)  
2 三井楽クラブ(福江)  
0 ソニー長崎(諫早)  
0 島クラブ(平戸)  
4 7 2 JA長崎経済連(長崎)  
0 3 鴻ノ巣クラブ(東彼)  
0 番クラブ(佐世保)

第40回県軟式野球選手権大会の開会式は、前年度優勝の親和銀行を先頭に、県体優勝の大村市役所、同準優勝の轟クラブ、天皇賜杯全日本大会出場のJA長崎経済連、西日本大会1部県代表のソニー長崎、高松宮賜杯全日本2部に出場した番クラブや、普賢岳噴火で昨年は不出場だった島原地区からは安中クラブなど、16地区代表全17チームの入場行進で開幕した。

開会式のあと大橋球場で5試合と三菱球場で4試合の計9試合が行なわれた。



入場行進する島原地区代表の安中クラブ



選手宣誓する清水一善・親和銀行主将

(平成4年11月14日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【大瀬戸】打安点

③ 白 浜	4	0	0
④ 山 口	1	0	0
4 本 木	1	0	0
⑦ 山 添	3	0	0
⑧2 山 添	2	0	0
⑤ 西 平	3	0	0
⑥ 宮 口	2	1	0
② 向 井	1	0	0
H8 山 野	1	0	0
① 宮 島	1	0	0
⑨ 神 浦	1	0	0
H9 大 抜	1	0	1
9 玉 本	0	0	0
		21	1 1

### 愛野体協が勝つ

【一回戦】◇大橋：第1試合◇ 振球犠盗失併残 1時間30分

大瀬戸クラブ	000 001	1	7	8	0	1	3	1	9
愛野町体協	200 110x	4	2	3	1	4	1	0	3

(6回時間切れ)

【評】立ち上がり一死満塁の先制機に敵失と田中宏の左犠飛などで2点を先取した愛野町体協は、四回は重盗で、五回には再び相手守備の乱れに乗じて各1点を加えた。

対して大瀬戸クラブは再三、四球で好機を迎えたがタイムリー打が出ず、六回押し出しで1点を返したのみ。

大瀬戸クの今季は、西日本1部で2勝(ベスト4)、天皇賜杯は0勝、高松宮杯1部が3勝(準優勝)、県体0勝の、5大会で5勝5敗。

【愛野町】打安点

⑦ 宮 本	3	1	0
⑥ 吉 岡	3	0	0
③ 田 中	2	1	0
① 木 戸	2	1	0
⑧ 今 崎	3	0	0
⑨ 田 中	0	0	1
H 坂 上	1	0	0
④ 宮 川	2	0	0
H 蛙 石	0	0	0
⑤ 橋 本	2	0	0
② 中 尾	2	1	0
		20	4 1

【御厨】打安点

⑧ 前 田	4	2	2
⑥ 滝 川	3	1	0
① 川 上	3	0	0
② 重 本	3	0	0
⑤ 近 藤	3	0	0
④ 川 村	3	1	0
⑦ 浜 本	1	1	0
R7 萩 尾	2	0	0
③ 松 島	3	0	0
⑨ 池 田	2	0	0
		27	5 2

### 御厨好プレーでピンチ脱す

【二回戦】◇大橋：第2試合◇ 振球犠盗失併残 1時間19分

御厨クラブ	001 000 02	3	3	0	1	1	0	1	4
郷ノ浦ヤンキース	000 100 00	1	2	2	2	0	1	1	6

(延長8回無死満塁制)

【評】1-1のまま無死満塁制の延長八回の御厨クラブは敵失と前田の中前適時打で2点を挙げたが、郷ノ浦ヤンキースは長岡のライナーが右翼手に好捕され飛び出した二走と併殺を喫した。

それまでは両チームとも安打の走者を手堅く送りタイムリーを引き出して1点ずつを挙げる好ゲームだった。

郷ノ浦は昨季県体の覇者。今季は不調で天皇杯、国体、県体には他チームの後塵を拝し、高松宮杯1部に参加したが2大会で0勝。

【郷ノ浦】打安点

⑧ 長 岡	4	0	0
⑥ 稗 田	3	1	0
④ 辻 川	2	0	0
① 樋 口	3	1	1
② 村 田	3	0	0
③ 内 山	3	1	0
⑦ 土 谷	1	1	0
⑨ 日 高	2	0	0
⑤ 山 本	3	0	0
		24	4 1

【愛野町】打安点

⑦宮本	3	0	0
⑥吉岡	3	0	0
③田中孝	3	0	0
①木戸	3	0	0
⑧今崎	2	0	0
⑨田中宏	2	1	0
R萩	0	0	0
H蛙石	0	0	0
④宮川	2	1	0
⑤橋本	3	0	0
②中尾	2	0	0
	23	2	0

親銀井内が投打に活躍

【二回戦】◇大橋：第3試合◇ 振球犠盗失併残 1時間18分

愛野町体協	000 000 0	0	6	2	1	0	1	1	5
親和銀行	000 010 X	1	0	4	1	1	1	0	3

【評】親和銀行の井内投手の一人舞台の感があった。投げては愛野町体協打線を散発2安に抑えてシャットアウト。打っては五回四球走者を一塁に置いて左翼頭上を破り決勝の1点を叩き出した。井内だけが際立ったことは他のナインは何をしていたかということに。愛野町体協の木戸は連投に関わらず親銀打線に2安打しか許さなかったが打線の援護がなかった。今季は選手権の他は高松宮杯1部に出場し2勝を挙げ、準決勝で前試合戦った大瀬戸クに黒星の五分。

【親和】打安点

⑨森山	2	0	0
⑤酒井	1	0	0
⑧丸本	3	1	0
③益永	3	0	0
⑥添田	2	0	0
②米倉	1	0	0
⑦田口	2	0	0
①井内	2	1	1
④清水	1	0	0
	17	2	1

安中ク守備の乱れ響く

【二回戦】◇大橋：第4試合◇ 振球犠盗失併残 1時間31分

安中クラブ	000 010	1	4	1	0	2	4	0	6
美津島マージャズ	300 000	3	9	1	0	2	1	0	2

【評】安中クラブのメンバーは普賢岳噴火による被災地の人々がほとんどで実戦不足から立ち上がりボールが手につかず、3連続失策に捕逸やボークが絡んでいきなり3失点。これが大きいのしかかり、五回に堀本の安打で1点を返したのみ。四、六回に無死一、二塁の反撃機を強行策で潰したのも悔やまれ、美津島打線を無安打に抑えた仲宗根の好投に報えなかった。

今季に島原地区からの公式戦参加は、島原市役所が災害見舞いの返礼にと西日本2部と高松宮杯2部の大村と、国体成年は対馬へと参加。一週間前の県体には健友クラブが参加している。

【安中】打安点

⑤堀本	4	1	1
④永川	2	0	0
③上田	3	1	0
⑧大町好	3	1	0
①仲宗根	3	0	0
⑦平山	3	0	0
⑨出田	3	0	0
②田浦	3	1	0
⑥大町明	3	1	0
	27	5	1

【美津島】打安点

⑥黒岩	3	0	0
⑤糸瀬光	2	0	0
⑧中庭	3	0	0
②井上	3	0	0
①糸瀬秀	3	0	0
④高島	2	0	0
⑦西尾	1	0	0
7中尾	1	0	0
③阿比留	2	0	0
⑨岩見	2	0	0
	22	0	0

轟ク拙攻響き逆転負け

【二回戦】◇大橋：第5試合◇ 振球犠盗失併残 1時間30分

轟クラブ	001 010	2	1	2	1	0	0	0	8
大村市役所	010 003x	4	2	6	1	0	0	0	6

(6回時間切れ)

【評】この対戦は先週の県体決勝戦での再現。轟クラブが雪辱なるかと思われたが六回裏、それまで大村市役所打線を1点に抑えていた川副が突如制球を乱し二死満塁から3連続四死球で3点を許し、なおも攻撃を残して時間切れにより敗退した。

轟クラブは五回に5連打しながらスクイズ失敗で1点の勝ち越し点しか奪えなかったのが最後に響いた。

轟クの今季戦績は、九連杯で初戦敗退。天皇杯は奮起して3連勝で決勝進出も経済連に0-2。県体でも3連封した決勝で大村市役所に0-1敗戦の準優勝。4大会で6勝4敗。



3回表轟クラブ一死二塁、道副が左前タイムリーして同点となる

【轟】打安点

②谷端和	4	1	0
⑤平野	3	1	0
③芦塚	3	1	1
⑥山口辰	3	1	0
⑨前田	2	1	0
①川副	3	1	0
④谷端道	2	1	0
⑦浜崎	2	0	0
⑧道副	3	2	1
	25	9	2

【大村】打安点

⑧岩永	3	1	0
④坂野	2	0	0
5小川	1	1	0
②山下	2	1	0
③1黒岩	3	0	0
⑥松田	1	0	0
⑤4横田	2	1	0
⑨下玉	2	1	1
⑦森幸	2	1	1
⑬13浦辺	2	0	0
H久保	0	0	1
	20	6	3

生月敵失に乗じ着実に加点

【生月】打安点

⑦坂口	4	1	0
⑨松山真	3	1	0
⑥戸田	4	1	0
③白浜	4	1	0
①元吉	4	0	0
⑤松山秀	2	0	0
④藤永	2	0	0
4池田	0	0	0
②末永	3	1	1
⑧大石	3	1	1
	29	6	2

【奈良尾】打安点

⑧江浜	3	0	0
⑤浜村	2	0	0
H4中田	1	0	0
③山脇	3	2	0
④5辻	3	0	0
①平田	3	0	0
⑥西村	2	1	0
⑨窄口	2	0	0
②宮脇	2	0	0
⑦杉山	2	1	0
	23	4	0

【二回戦】◇三菱：第1試合◇ 振球犠盗失併残 1時間27分

生月体協	000 101 0	2	4	1	2	0	0	0	9
奈良尾クラブ	000 000 0	0	4	0	0	0	4	0	2

【評】生月体協は敵失に乗じて2点を奪い、エース元吉は奈良尾クラブを散発4安打に抑えて完封勝ちした。

四回の生月は三つの敵失でつかんだ二死満塁のチャンスに大石が三遊間を破って先制。六回にはやはり相手のエラーを足場に得点機をつかみ末永の左中間安打で2点目を加えた。

奈良尾も四回まで毎回安打だったが、バントの失敗や牽制挟殺などでホームが踏めず、今季は天皇杯で松浦市役所に勝利した1勝どまりで、2つの負けに終わった。

【ソニー】打安点

④古池	3	0	0
⑤馬場	3	1	0
⑥清水	2	0	0
H水本	1	0	0
⑦里山	3	0	0
③大野	2	0	0
⑨里山研	2	0	0
②西川	2	0	0
①阿部	2	0	0
⑧森本	2	0	0
22 1 0			

### 投手戦で三井楽ク

【二回戦】 1時間19分 振球犠盗失併残

ソニー長崎	000	000	0	0	2	0	0	0	4	0	1
三井楽クラブ	010	001	X	2	4	3	1	1	0	0	7

【評】ソニー・阿部、三井楽・坂本の投げ合いも、ソニーに思わぬエラーが出て三井楽が逃げ切った。二回、三井楽は四球や敵失で二死満塁の好機に無安打で1点先制。六回にも敵失に吉田の三遊間内野安打を絡め貴重な1点を加えた。ソニー打線は坂本の球威に押されヒットは初回に馬場の1本だけだった。今季のソニー長崎は西日本1部予選で優勝(4勝)、天皇杯(1勝)と国体(2勝)で計7勝だったが、選手権では増えず3敗目。

【三井楽】打安点

②三田浩	3	0	0
⑤浜村利	3	2	0
⑥藤原	3	0	0
①9坂本	2	1	0
③三田淳	2	0	0
⑧吉田	2	1	0
⑦浜村浩	3	0	0
④明石	3	0	0
⑨古本	2	0	1
1本田	0	0	0
23 4 1			

### 経済連が快勝

【二回戦】◇三菱：第3試合◇ 振球犠盗失併残 1時間23分

島クラブ	000	000	0	0	2	3	1	0	4	0	4
JA長崎経済連	001	102	X	4	1	4	2	2	0	1	5

【評】経済連がソツのない試合運びで得点、エース佐藤純を堅い守りで盛り立てた。三回の経済連は死球や敵失で作った無死二三塁に松富のスライダースで先取。四回に加算した六回には四球や敵失に岩崎の右越え三塁打などでさらに2点を加えた。

島クラブはチャンスの後続が無く4失策も響いて、天皇杯予選と選手権での2敗が今季の県大会戦績。

【島】打安点

⑦松本	2	1	0
④藤田	2	0	0
⑤田中	2	0	0
⑥石橋	3	0	0
③幸谷	2	1	0
①山見	2	0	0
H中村	1	1	0
⑧小野	2	0	0
⑨度島	2	0	0
②柳本	2	0	0
20 3 0			

【経済連】打安点

⑨野口克	4	0	0
⑤松富	2	0	0
⑧白石	3	0	0
③富永	2	0	0
⑦岩崎	1	1	1
②佐藤公	2	1	0
⑥福田	3	0	0
①佐藤純	3	0	0
④谷口	2	0	0
22 2 1			

【番】打安点

⑥山村	3	0	0
⑦1永松	3	0	0
⑤山田	3	1	0
①岡村	3	0	0
7村田	0	0	0
②平山	2	0	0
⑧奥川	2	0	0
④堤	2	0	0
③永野	2	0	0
⑨筒井宏	1	0	0
9筒井純	1	0	0
22 1 0			

### 鴻の巣逃げ切る

【二回戦】◇三菱：第4試合◇ 振球犠盗失併残 1時間29分

番クラブ	000	000	0	0	5	3	0	2	0	0	4
波佐見鴻の巣	100	002	X	3	5	2	2	1	1	0	6

【評】鴻の巣は初回二死、中前打の山口を二塁に置いて石本が右翼線を破り先制。六回には四球から捕逸や森文の二塁打などで決定的な2点を加えて試合を決めた。

番クラブは今季の高松宮杯2部で優勝(4勝)して全国大会出場を果たしたが選手権は初登場。鴻の巣・森投手の外角カーブに手を焼いた。三回に二死から永松が敵失で出塁。続く山田が唯一の安打して好機を広げたが、牽制球に刺され前半の同点機を逸した。

【三】石本 森直、森文

【波佐見】打安点

⑥村川	3	0	0
②山口	3	2	0
⑨小柳	3	1	0
③石本	2	2	1
⑧村上	3	0	0
①森文	3	1	0
⑤森直	2	1	1
⑦古賀	1	0	0
④平野	3	0	0
23 7 2			

### 親銀がコールド勝ち 御厨につけ入るスキを与えず

【準々決勝】 1時間30分 振球犠盗失併残 (5回コールド)

親和銀行	016	01	8	1	5	2	6	0	0	5
御厨クラブ	000	00	0	#	2	0	1	3	0	5

【親和】打安点

⑧丸本	3	0	0
④清水	1	0	0
⑦田口	2	1	1
H7志賀	1	0	0
③益永	2	1	1
⑥添田	2	1	1
②米倉	2	0	0
H2永田	1	1	0
⑨森山	1	0	0
H9仲島	1	0	0
①中島	1	0	0
1荒金	2	1	4
⑤酒井	2	0	0
21 5 7			

【評】御厨クラブの滝川投手は球威不足の上にコントロールも十分でなかった。このため打者一巡した三回に親和打線に捕まった。一死後丸本、清水に四球を呈すると走られ、田口の内野安打、益永の中犠飛、添田の中前タイムリーとたたみかけられたあと、遊飛落球と森山への四球が痛く、荒金に右中間走者一掃二塁打され一挙6点を献上する始末。二回と五回もエラー絡みであり、守備の乱れが傷口を大きくした。

この点、親銀の守りは堅く、左腕・中田の制球に不安があると見るとベンチは二回半ばに荒金を投入し御厨クにつけ入るスキを与えなかった。

御厨クラブは選手権に6年ぶり5回目の出場で初勝利を挙げたが、今季の県大会は選手権だけの参加であった。

【御厨】打安点

⑧前田	1	0	0
H泊	1	0	0
①滝川	3	0	0
⑤川上	2	0	0
②重本	2	1	0
⑥近藤	2	0	0
④川村	1	1	0
③松島	2	0	0
⑦池田	1	0	0
H萩尾	1	0	0
⑨中野	2	1	0
18 3 0			

### 力の投手戦を展開 大村が再度の満塁制を勝つ

【準々決勝】 1時間57分 振球犠盗失併残

大村市役所	000	000	012	3	2	2	0	1	2	0	8
美津島マーシャルス	000	000	010	1	6	1	0	2	1	0	10

【評】無死満塁制となった延長八回は大村が死球押し出して、美津島は神宮の右前に落ちる安打で共に最小点を挙げたにとどまり、九回再度の無死満塁制。ここで大村は三ゴロ失と山下の右翼線にポトリと落ちる安打で2点を挙げたのに対し、美津島は中軸に1本が出ず、走者を迎え入れられなかった。

それまでは美津島が押し気味。大村打線は糸瀬秀の切れのよいスライダースに手を焼き一回に死球、四回に安打の走者を出したのみ。大村の左腕・浦辺も前日より調子をあげてきており、力のこもった投手戦だった。

(個人のテーブルは次ページに掲載)

【大村】打安点

⑧	岩永	4	0	0
④	坂野	4	1	0
②	山下	3	1	1
③	黒岩	4	0	0
⑥	松田	4	0	0
⑦	森幸	3	0	0
⑨	大森	1	0	0
H9	森克	1	0	0
9	下玉	0	0	0
H9	久保	0	0	1
⑤	三岳	1	0	0
H5	横田	1	0	0
5	小川	1	0	0
①	浦辺	3	0	0
		30	2	2

【美津島】打安点

⑥	黒岩	3	1	0
⑤	糸瀬	4	0	0
⑧	中庭	4	0	0
②	井上	4	1	0
①	糸瀬	4	0	0
④	高島	3	1	0
⑦	古郷	1	0	0
H7	岩見	2	0	0
③	阿比留	1	0	0
H3	神宮	2	1	1
⑨	中尾	3	0	0
		31	4	1



【三井楽】打安点

②	三田浩	3	1	0
⑤	浜村利	3	0	0
⑥	藤原	3	0	0
③	坂本	3	1	0
①	三田淳	3	1	0
⑧	吉田	3	2	0
⑦	浜村浩	2	0	0
H	今道	1	0	0
④	明石	2	1	0
⑨	古本	1	0	1
		24	6	1

【生月】打安点

⑦	坂口	2	2	0
⑨	松山真	3	2	1
⑥	戸田	2	0	0
④	元吉	3	0	0
⑤	松山秀	3	1	0
③	池田	3	0	0
②	末永	2	0	0
⑧	大石	2	1	0
①	宮崎	2	0	0
		22	6	1

【生月体協-三井楽ク】1回裏一死二三塁、元吉の投ゴロの間に三走の坂口生還し先取点

## 坂口が決勝タイムリー

【準々決勝】 1時間17分 振球犠盗失併残

三井楽クラブ	001 000 0	1	1	1	1	1	2	0	4	【三】明石
生月体協	100 010 X	2	2	1	1	0	0	0	4	

【評】立ち上がり簡単に1点を先取した生月体協だったが宮崎投手の出来が前半はいま一つ。三回には先頭明石の三塁打と古本の中犠飛で同点に追いつかれた。

このあたり前途は楽観を許さなかったが、宮崎が立ち直る一方、五回に二死走者を二塁に置いて松山真が中前にタイムリーを放って決勝点となる1点を挙げた。

三井楽クラブは二回吉田の打球は三塁ベースに当たり、左翼線上を転々とする間に、二塁から本塁を突いた坂本が左翼手の好返球に刺されたのが痛かった。

三井楽クは第13回(S. 43年)大会以来、24年ぶりの選手権。今季の県大会は選手権のみの参加であった。

## 波佐見に痛い守備の乱れ

【準々決勝】 1時間33分 振球犠盗失併残

J A長崎経済連	501 000 1	7	8	0	1	2	0	1	2	【三】白水
波佐見鴻の巣	000 000 0	0	5	1	0	0	5	0	2	【二】松富

【経済連】打安点

⑧	野口克	4	0	0
⑤	松富	4	1	1
⑦	森	4	0	0
③	富永	3	0	1
⑨	白水	3	2	1
②	佐々野	2	0	1
2	佐藤公	0	0	0
④	早口	3	1	1
①	谷川	1	0	0
H	尾崎	1	0	0
1	松崎	1	0	0
⑥	野口進	3	0	0
		29	4	5

【評】一回表の攻防が試合を決めた。経済連は先頭から二人が相手内野陣の一塁悪送球で出塁。一死後に富永の三ゴロが野選を誘い無安打で1点。その後も暴投や白水に谷口の適時打で大量5点を奪った。守備でもよく鍛えられた動きで早川、松崎の両投手を盛り立て波佐見打線に得点を許さなかった。

波佐見はエースの森文が内角シュートや外角スライダーを制球よく決め、二回以降は経済連を2安打に抑えただけに、初回の守備の乱れが悔やまれる。波佐見鴻ノ巣の今季は春の九連杯と天皇杯予選で初戦敗退。夏に対馬遠征した国体成年での1勝と合わせて今季県大会は2勝4敗で県選手権は2年ぶり4回目の出場で通算4勝4敗。2年前はベスト4。

【波佐見】打安点

⑥	村川	3	0	0
⑧	山口	3	0	0
④	小柳	3	0	0
③	石本	2	0	0
⑦	村上	3	0	0
①	森文	2	0	0
⑤	森直	2	2	0
⑨	古賀	2	0	0
②	福田	2	0	0
		22	2	0

## 親銀江口がノーヒットノーラン

【準決勝】 1時間28分

親和銀行	100 000 0	1	【三】益永
大村市役所	000 000 0	0	

【評】親和銀行の新人・江口投手が四死球4個のノーヒットノーランゲームを達成した。

立ち上がりこそややボールが多く、一、二回に四球走者を各一人ずつ出したが、しり上がりに調子を出しストレートにカーブ、フォークを有効に使って大村市役所打線に安打を許さなかった。ただ七回に再び制球を乱して四死球を与え二死一二塁のピンチを招き、次打者にも1-3とカウントを悪くしてベンチに冷や汗をかかせたのはいただけない。

親銀打線の方は立ち上がり、いきなり田口の安打、益永の左中間三塁打で1点先制したが、その

<個人のテーブルは不掲載>

後はさっぱり。六回の一死満塁の加点機も主軸打者が凡退。七回の一死三塁もバスター失敗の捕飛で併殺を喫するなどして加点できなかった。

一昨年の選手権決勝戦で敗戦(0-1)の雪辱に燃えた大村市役所であったが、5年連続14度目の選手権だが、ここ3年間は6勝の好成績。今季の県大会は、九連杯の初戦で親銀に0-2でやられ、天皇杯と国体成年は不出場。一週間前の県体で平戸ク、福江ビクトリー、鹿町町を撃破して決勝戦も轟クラブに1-0勝利で優勝の栄に輝いている。

# 効いた経済連の先制点

## 継投で生月打線をかかわす

【評】初回の攻防が明暗を分けた。生月体協は坂口と戸田のヒットと送りバントで一死一、三塁の絶好機をつくったが元吉と白浜が凡退。後攻の経済連は先頭の白石が四球、松富のヒットと佐々野のバントに続いて岩崎がきっちりスクイズを決め、さらに白水も左翼線にはじき返して松富が生還し、立ち上がり制球に苦しむ生月の元吉から2点を奪った。

経済連は四、六回にも四球と敵失などで無安打ながら1点ずつを追加。投げては佐藤純と早川が完封リレーして決勝進出を決めた。

生月体協は四回に先頭の戸田が一二塁間突破の安打

【準決勝】 1時間31分

生月体協	000 000 0	0
J A長崎経済連	200 101 X	4

で出塁したが盗塁失敗し、反撃のチャンスをつぶした。

生月は前年に続いて4度目の選手権だが、2度目出場の63年(第38回)大会でも準決勝で経済連と対戦して3-5敗戦し決勝進出を阻まれている。今季の九連杯初戦は轟クラブを倒した二回戦で諫早信金に1点差の負け。天皇杯予選も波佐見鴻の巣を倒して親和銀行に1-2。対馬での国体成年では那賀ホークス(彦岐)、平戸クラブ、波佐見鴻の巣を撃破して準決勝で経済連に六回コールドの0-7敗戦して、今季県大会は7勝4敗でベスト4が2大会。

# 親和銀行10度目のV

## 延長十回に決勝点

### J A長崎経済連あと一步

【評】0-0で延長戦に入った10回表、親銀は一死後に中田が一二塁間を抜き直ちに二盗。荒金が右邪飛のあと酒井が四球を選び上位打線につないだ。ここで丸本が中前ヘライナー。野手が前進してスライディングキャッチを試みたが落球(記録は安打)し二塁から中田がホームを踏んだ(写真)。

試合展開は序盤から中盤にかけては経済連のペース。親銀の好機は四回二死から添田と米倉の連打で得た一三塁。中田の右翼ホームラン性の打球を白水のフェンス際的美技で阻まれたただけだったのに対し、経済連は七回まで毎回走者。このうち五回は得点圏に走者を進めたが、ここ一発が空砲に終わった。経済連の先発・松崎は七回を三者凡退に切り抜けたが、親銀打線にいい当たりをされだしたのでベテランの早川を八回からマウンドに送った。このベンチの作戦は間違いとは言えないが、早川に全盛時の球威はなく親銀打線につかまった。同じ八回から救援した親銀の荒金は球威不足ながら内外角を揺さぶり、経済連打線に的を絞らせず、エラーの走者を一人出したのみで、この差が明暗を分けた。両チーム美技の応酬で決勝戦にふさわしい好ゲームだった。

【決勝】 (延長10回) 2時間15分

親和銀行	000 000 000 1	1
J A長崎経済連	000 000 000 0	0

【二】 佐々野 <個人のテーブルは不掲載>



- 表彰選手**
- ◇最高殊勲選手賞 丸本 優一(親銀)
  - ◇最優秀投手賞 荒金 照貴(親銀)
  - ◇松原泰賞 江口 正敏(親銀)
  - ◇首位打者賞 佐々野忠信(経済連)
  - ◇敢闘賞 白水 守(経済連)

※松原泰賞とは県連副会長の松原泰氏(諫早)が平成4年に死去。遺族から県連に10万円の寄贈を受けたので定期預金とし利息分で松原賞を設けた。

## 全員野球の勝利です ◆親和銀行・川崎浩監督

投手を中心にした守りの野球ができた。決勝は1点入ったときに勝ったと思った。全員野球で勝てたのがうれしい。今年は20代後半の選手が抜けた若いチーム。新生・親和銀行のスタートが飾れた。

## 県代表チームの全国大会戦績

天皇賜杯第47回全日本 9.18~・東京都

- 【一】 JA長崎経済連 6-1 富士通アイソテック(福島)
- 【二】 " 0-5 日本電気(株)山梨工場(山梨)

第14回西日本(1部) 6.5~・鹿児島県

- 【一】 ソニー長崎 8-2 ヤングパワー(広島)
- 【二】 " 1-2 サガシキ印刷(佐賀)

高松宮賜杯第36回全日本(1部=北海道)は参加なし

第47回山形国体には県勢の参加なし

- (成年1部) 佐賀(1勝)、宮崎(1勝)
- (成年2部) 大分(2勝=ベスト4)、福岡(1勝)
- (壮年の部) 福岡(1勝)、鹿児島(0勝)

第14回西日本(2部) 5.15~・徳島県

- 【一】 N T T 大和 5-4 向原クラブ(広島)
- 【二】 " 7-3 F. Yディアーズ(奈良)
- 【準々】 " 0-5 阿波体協(開催地)=優勝

高松宮賜杯第35回全日本(2部) 10.16~・栃木県

- 【一】 番クラブ 3-1 ジョーカー(埼玉)
- 【二】 " 0-9 テンプテイション(香川)

平成4年に開催されたその他の競技会の戦績 (一般のみ)

天皇賜杯第47回県予選 5.17~佐世保

ペガサス(大村)	0
J A長崎共済連(長崎)	1 11
西海クラブ(佐世保)	0 4
大瀬戸クラブ(西彼)	1 6
轟クラブ(北高)	3 6
奈良尾クラブ(上五島)	5 0
松浦市役所(松浦)	3 3
J A福江(福江)	0 7
豊玉町野球部(対馬)	1 0
波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)	2 2
生月体協(県北)	3 1
島クラブ(平戸)	1 2
親和銀行(佐世保)	5 1
J A長崎経済連(長崎)	2 2
吾妻町体協(南高)	0 2
壱岐ユニオンズ(壱岐)	0 1
ソニー長崎(諫早)	2

第47回国体(成年2)予選 7.11~対馬

平戸クラブ(平戸)	0
那賀ホークス(壱岐)	2 3
舛田グループ(上五島)	10 4
福江球友会(福江)	3 0
波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)	9 0
島原市役所(島原)	6 7
美津島ポパイ(対馬)	3 0
佐世保市役所(佐世保)	0 13
J A長崎経済連(長崎)	12 3
有明町クラブ(南高)	5 0
九電大村発電所(大村)	2 1
ソニー長崎(諫早)	3 3
大島造船所(西彼)	0 2
佐世保市水道局(佐世保)	0 0
J A長崎共済連(長崎)	17 4
上対馬ライオンズ(対馬)	7 0
松浦市役所(松浦)	0

第47回国体(壮年)予選 7.4~吉井

北松壮年クラブ(県北)	2
上対馬北斗クラブ(対馬)	3 10
壮年諫早クラブ(諫早)	0 0
メンフッズ福江(福江)	10 7
小長井壮年クラブ(北高)	1 7
コーカスクラブ(長崎)	10 0
川棚クラブ(東彼)	4 2
松浦壮年クラブ(松浦)	5 7
大村市役所(大村)	4 5
上五島壮年(上五島)	5

九州ミニ国体 8.21~大分

成年1部の親和銀行は九州国体で敗退  
成年2部のJA経済連は九州国体で敗退  
壮年のメンフッズ福江は九州国体で敗退

・国体成年2部決勝戦は雨天順延し7/19に大村で行なう

第14回西日本1部県予選 4.11~飯盛

ソニー長崎(諫早)	2
彼杵スラッガーズ(東彼)	1 1
長大クラブ(長崎)	1 0
海自造修所(佐世保)	3 4
大瀬戸クラブ(西彼)	9 1
中村クラブ(大村)	4 3
富江クラブ(福江)	2 1
小長井クラブ(北高)	0 0
全江迎(県北)	4 7
ライガース(平戸)	10 0
美津島マーシャルズ(対馬)	4 8
上五島クラブ(上五島)	5 1
肥前クラブ(松浦)	6 8
有明町クラブ(南高)	1

第14回西日本2部県予選 4.4~大村

ホーク(大村)	10
飯盛クラブ(北高)	6 9
つばさクラブ(県北)	4 0
島原市役所(島原)	0 2
カルテックス(平戸)	1 5
千々石町野球部(南高)	5 4
県職クラブ(上五島)	0 2
N T T大和(佐世保)	1 4
有喜橋クラブ(諫早)	0 4
長崎ダイナマイツ(東彼)	0 2
西海棒球队(西彼)	6 4
御厨OBクラブ(松浦)	0 3
福江市役所(福江)	2 7
田河東海(壱岐)	1

第15回九州選手権県予選 4.25~諫早

J A長崎経済連(長崎)	1
諫早信用金庫(諫早)	3 5
生月体協(県北)	2 4
轟クラブ(北高)	0 0
平戸クラブ(平戸)	1 11
親和銀行(佐世保)	4 2
大村市役所(大村)	0 4
波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)	1 2
J A長崎共済連(長崎)	3 1
豊玉町野球部(対馬)	4 0
南串野球部(南高)	5 2
中興化成工業(松浦)	0 3
三菱重工長崎(長崎)	7 2
エンジェルス(佐世保)	0

※最大の14チームが参加※

高松宮賜杯第36回1部 6.6~松浦

松浦クラブ(松浦)	3
西海クラブ(佐世保)	7 4
愛野町体協(南高)	8 9
大宰府クラブ(諫早)	3 4
郷ノ浦ヤンキース(壱岐)	5 7
中村クラブ(大村)	12 1
上五島ハジャーズ(上五島)	2 8
大瀬戸クラブ(西彼)	9 6
白山クラブ(平戸)	4 9
福江ビクトリー(福江)	15 5
波佐見野球倶楽部(東彼)	2 1
小長井クラブ(北高)	5 4
西九州三菱自販(長崎)	11 7
峰ファイターズ(対馬)	0 8
全江迎(県北)	4

高松宮賜杯第36回2部 7.18~大村

九電長崎電力所(西彼)	0
シゲマツクラブ(長崎)	3 1
御厨OBクラブ(松浦)	4 0
九電大村営業所(大村)	1 10
県職クラブ(上五島)	3 2
田河東海(壱岐)	0 2
全田平(県北)	0 5
島原市役所(島原)	4 0
飯盛クラブ(北高)	5 3
吾妻町体協(南高)	1 1
有喜橋クラブ(諫早)	14 0
カートップ(東彼)	0 0
上対馬メッツ(対馬)	1 3
番クラブ(佐世保)	2 4
カルテックス(平戸)	0 2
福江市役所(福江)	7

第44回県民体育大会 11.7~長崎

(長崎) J A長崎共済連	2
(佐世保)海自造修所	3 1
(北松)鹿町町	3 3
(対馬)上対馬ライオンズ	1 0
(大村)大村市役所	8 3
(平戸)平戸クラブ	1 2
(福江)福江ビクトリー	2 0
(島原)健友クラブ	0 1
(西彼)大瀬戸クラブ	0 0
(南松)上五島町	2 6
(諫早)千住スポーツクラブ	2 1
(松浦)今福メッツ	1 0
(南高)千々石町野球部	2 1
(東彼)彼杵スラッガーズ	5 0
(壱岐)勝本北星	0 3
(北高)轟クラブ	4

九州ブロック(佐賀)で敗退

九州ブロック大会が長崎のため  
県優勝チームが全国大会へ出場